新型コロナウィルス、暮らしネット・えんでは その2

『緊急事態宣言』は解除されましたが、首都圏の感染者数は増える一方のこの頃です。各事業所の様子、スタッフの生活、介護保険の奇妙な特例措置など、えんとその周辺の様子をお知らせします。

◆ケアサポートえん◆

新型コロナウィルス感染症の緊急事態宣言が解除される頃から、徐々に通所施設が人数制限や時間の短縮はあるものの再開し、通常以外のヘルパーの派遣は徐々に減ってきました。短期入所施設も今まで通りの利用が出来るようになり、利用できずストレスで気が滅入ると言っていた利用者さんのご家族もやっと一安心。保育園・小学校等も始まり、スタッフも少しづつ今までの働き方が出来るようになってきました。とは言っても作業服屋さんに防護服代用のツナギを買いに走り、発熱された利用者さんには慎重な対応が続いています。消毒薬やマスク等必要な物品を寄付して下さる地域の方々にも支えられ、気づけば5月6月は、あっという間に過ぎてしまいました。

やっと落ち着いたかな？でも感染者がまた増えているねと、日常生活も自粛しつつ過ごしています。（西本由美子）

◆グループホームえん◆

グループホームえんでは、「緊急事態宣言」が解除された後の６月半ばからご家族の面会を再開しました。ただし、コロナ以前のように「いつでもどうぞ！」というわけにはまだまだいきません。電話で事前打ち合わせ、面会が可能かをお答えしています。そろそろお部屋でゆっくり過ごしていただけるかなぁ…と考えていましたが、この原稿を書いている７月初旬には、またじわじわと感染者が増え始め、玄関での面会をお願いした方もいました。早く安心してご家族をお迎えしたいものです。（井上暁子）

◆デイホームえん◆

当初１日の利用人数９人のところ３～４人に減らしていましたが、現在では６人前後まで増やしています。昼食時は密集しないように和室、サンルーム、相談室を使用し分散して食べるようにしています。お休みされていた方の中には、ステイホーム中に妄想がひどくなったり、意欲や筋力の低下がみられた方もいました。一か月ぶりに迎えに行くと、スタッフの顔を見るなり「行きたかった」と涙ぐまれた方もいました。

ボランティアさんたちは外回りの庭仕事の方たちのみ活動されています。先